

第6次小国町総合計画 を策定しました。 ～計画策定の目的と経過～

町ではこのたび、2035年を目標年次として、中長期的なまちづくりの指針となる「第6次小国町総合計画」を策定しました。策定にあたっては、町民のかたの声を聴き、計画に反映することで、町民とともに作りあげるまちづくりを目指しています。今回は、本計画の策定の目的をあらためて確認するとともに、その経過について紹介しながら、総合計画の重要性をお知らせします。

特集 第6次小国町総合計画を策定しました。 ～計画策定の目的と経過～

総合計画策定の目的

本町では、平成31年3月に「自然を愉しみみんながわくわくする白い森の国おぐに」を目指すべき姿とする「第5次小国町総合計画」を策定し、その実現に向け、『白い森の国を担う「人」づくり』『白い森の魅力を磨く「環境」づくり』『白い森を舞台とする生き活きとした「暮らし」づくり』『持続的な行財政運営』の4つの柱に沿い、施策を展開してきました。

一方で、少子高齢化や人口減少の急速な進行をはじめ、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う生活様式の変化、激甚化・頻発化する自然災害、情報通信技術や人工知能の進化、若者を中心とする田園回帰志向の高まりなど、自治体を取り巻く環境は大きく変容しています。令和7年度に第5次小国町総合計画の目標年次を迎えたことから、現在の社会構造の変化を的確に捉えながら、諸課題を整理し、持続的、自立的なまちづくりを進めていくために、昨年度、新たな計画となる「第6次小国町総合計画」を策定しました。



▲コロナ禍は自治体を取りまく環境の大きな変容をもたらした

「第6次小国町総合計画」は、2035年度を目標年次とする、中長期的な視点に基づいてまちづくりを進めるための指針であります。本計画については、町の将来像を明らかにし、その実現に向けた基本理念や目標などを示した「基本構想」と、それに基づく施策を計画的、効率的に実施するため具体的な事業を取りまとめた「基本計画」によって構成されています。一方、町で定める計画ではありますが、まちづくりの方向性を示す重要な指針であるため、町民のかたや地域とともに、「これからどのような小国町を目指すのか」という目標を共有するものでもあります。また、町が抱える課題は、様々な要素が複雑に絡み合いながら顕在化しているのが現状です。こうした課題を計画の中で整理し、どのように解決していくのかを明確化することにより、適切な予算の執行と計画的なまちづくりの展開を図るためのものとしても大きな役割を果たしています。総合計画は、目標年次を10年間としています。10年という期間を設けている理由とし



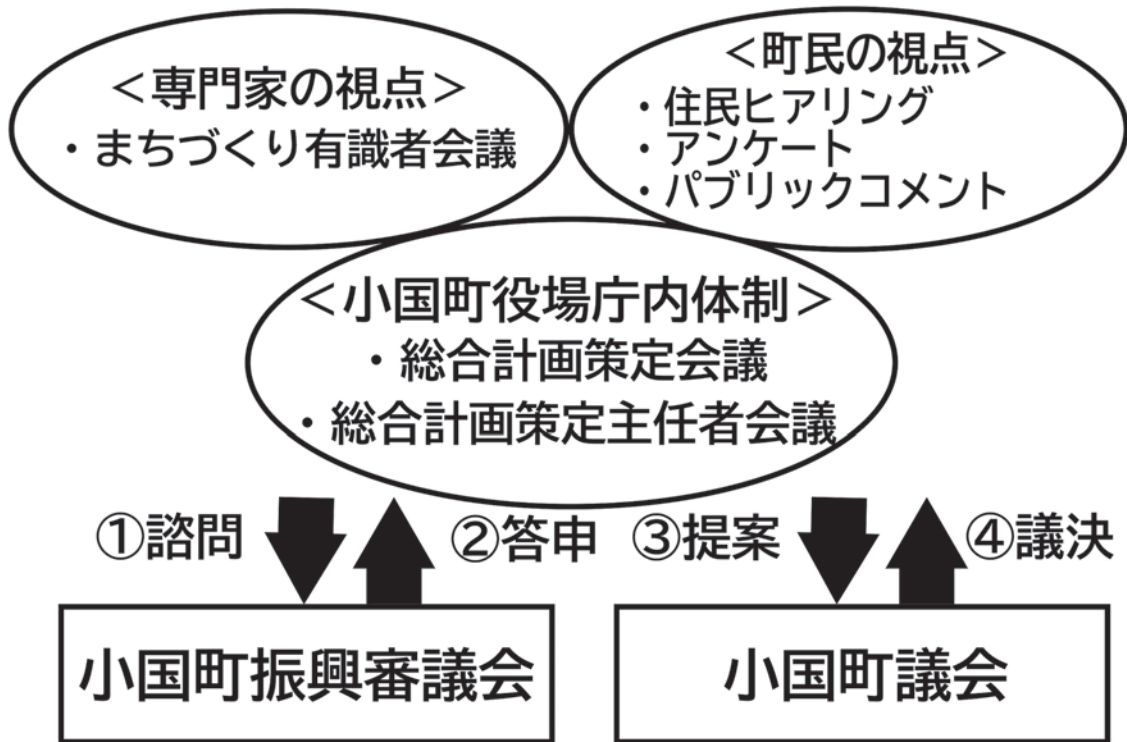
▲振興審議会では様々な視点からの意見共有が図られた

では、課題解決を計画的に進めるための基盤として総合計画を位置づけていることや、事業等が持続可能性を持って行われることで、長期的な視点でまちづくりを進めることができるという点もあげられます。

策定の経過

「第6次小国町総合計画」の策定にあたっては、庁内の組織である小国町総合計画策定会議及び策定主任者会

「第6次小国町総合計画（基本構想）」の策定体制



▲成人式の参加者に対して行ったヒアリングの様子

議において素案の作成を行いました。また、町民の各分野の代表に参画いただく小国町振興審議会を開催し、審議会への諮問、審議を経たうえで答申を受けました。このほか、計画案の策定における、有識者による指導組織として、多角的な視点で計画策定全体にわたって指導・助言をいただくまちづくり有識者会議での議論をはじめ、地域サロンに参加した町民のかたや、成人式に参加した若者などに対しての町の課

題や目指すべき方向性についてのヒアリング、中高生や子育て世代のかた、町内企業にお勤めのかたへのアンケート、町民の方の意見を広く求めるためのパブリックコメントを行い、幅広い視点から計画を策定する体制を構築しました。こうした経過を経て作成した基本構想案については、昨年12月定例会の議決を経て正式に決定しました。

小国町振興審議会の委員として提言いただいた白百合保育園の木村恵園長は「福祉や子育ての面から町の姿をかえりみた時に、行政や福祉施設などの組織ごとに役割が線引きされて、制度や取り組みなどの目的が一致していないのではと感じることがありました。とりわけ、子育ての施策についてはより関係機関が一体となって進めていく必要があると考え、振興審議会の場で5歳児

特集 第6次小国町総合計画を策定しました。 ～計画策定の目的と経過～

の健診の必要性について提案をしました。こうした経緯があり、今年度から5歳児健診の制度が始まったことは、現場や実際に子育てに携わるかたの声を総合計画という形で示した結果ではないかと思えます。これからも、総合計画をもとに、こうした垣根を越えた連携を様々な分野で実現していくことを期待しています。」と計画策定の経緯と施策への反映についてお話いただきました。



▲白百合保育園の木村恵園長

また、振興審議会及びまちづくり有識者会議において提言をいただいた法政大学現代福祉学部の関司直也教授は「振興審議会では、様々な分野に関わる皆さんから町内の現場目線で、また、まちづくり有識者会議では、全国各地や都市部の動きも見据えた客観的な視点で様々なコメントが寄せられました。そこでの議論を受けた今回の総合計画の大きな特徴は、町内外のかたがまちづくりに関わり、一体となって取り組みを考えていく人材としての『協働人口』の位置づけにあると思えます。その具体化に向けて、総合計画では『地域の暮らしを守る視点』と『地域の枠を超えて活力を取り込む視点』の2つの視点から政策を体系的に整理し、目標設定もなされています。人口減少、少子高齢化に伴う課題に直面しながらも、小国町の前向きな姿勢は大きな強みであり、第6次総合計画のひとつひとつの施策が前進し、町民全体でその手応え

第6次総合計画では、「みんなで未来を描こう 白いキャンバスに みんなで暮らそう 彩りゆたかな白い森で」を10年後に実現したい将来像として示しています。その実現に向け、本年度から整理した町の現状と課題を解決していくために、取り組むべきことを町民のかたと共有しながら、具体的な事業を進めてまいります。

計画の実行



▲法政大学現代福祉学部関司直也教授

が実感できることを願っています。」と総合計画への期待についてお話いただきました。

第6次小国町総合計画説明会を開催します

様々な世代の町民のかたへのアンケートやヒアリングをいただき策定した第6次小国町総合計画の詳しい内容について、各地域や団体の皆さまに説明する場を設けたいと考えておりますので、お気軽にお問い合わせください。

■対象団体

各地区の自治会、婦人会、老人会、スポーツ・文化団体などで、話し合いにより、交流と理解を深め、まちづくりに積極的に参加する団体

■問合せ先 総務企画課 政策企画担当 (☎ 62-2264) へ